【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和３年度学校評価 結果

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	伊万里市立牧島小学校

1　前年度 評価結果の概要	・新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、年度当初予定していた行事や授業形態に制限が生じたが、保護者や地域の理解や協力を得ながら可能な範囲で取り組むことができた。 ・家庭学習の充実、オンライン視聴時間やルール決めなど、学校と家庭が連携をして改善していきたい。 ・次年度は、複式学級が2学級となる。教育課程編制、学力向上、教職員の働き方改革等多方面に影響が生じると思われる。これまでの成果を生かしながら、課題解決に取り組んでいく。
2　学校教育目標	**よく学び、心豊かで、たくましく生きる「牧島っ子」の育成**
3　本年度の重点目標	【知】「確かな学力」の向上を果たす教育活動の推進 【徳】「豊かな心」を育む教育活動の推進 【体】健康安全な生活を送り、体力の向上を果たす教育活動の推進 【特色ある学校】「啓成中校区コミュニティスクール」の実施

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・令和3年度学力向上評価シートを配布し、教職員間でマイプランを共有すると共に、校内研修等により取組みの促進を図る。 ・教職員向けのアンケートを実施する。	B	・各教職員でマイプランを立て、その共有と実施に向けて取り組んでいる。 ・企画委員会で話し合った学力向上に向けた対策案を、全職員で共通理解を図り、実践に向けて取り組んでいく。 ・教職員向けのアンケートは12月に実施予定。	B	・各教職員でマイプランを立て、それを共有し、その実施に向けて取り組んだ。 ・児童向けのアンケート結果を配布し、今後の取り組みに生かしてもらった。 ・教職員向けのアンケートは1回実施。	B	・学力状況調査で県平均を上回っているので、おおむね達成できていると思われる。	（学力向上推進リーダー）
	○協働的な学びの実現に向けた教育活動	○児童に実施する意識調査で、6月の結果を踏まえ、12月の結果を上回るようにする。 ○「学び合い」を通して、協働的な学びができたと意識調査で回答した児童75%以上	・マイプランでPDCAサイクルを運用し、意識調査後に改善・修正を行い、協働的な学びのある授業を行う。 ・児童向けの意識調査を年2回行う。	B	・6月の意識調査では、協働的な学び合いができていると75%以上の児童が回答していたので、継続して学び合いを意識した授業を行っていく。今後は、更に、タブレットやホワイトボードを活用し、個人の発表力や書く力など、表現する力を身に付けさせていく。	A	・意識調査では、協働的な学び合いができていると84%の児童が回答していた。コロナ禍の中、学び合いを意識した授業を行い、タブレットやホワイトボードを活用し、個人の発表力や書く力など、表現する力を身に付けることができた。	A	・目標は達成できている。	（学び部）
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「人権意識の向上に努めている」と回答した教師80%以上 ○「道徳の勉強のときは人の気持ちや自分のことを考えている」と回答した児童80%以上	・たて割り班活動を年に3回以上実施する。 ・「ほかほかタイム」で人権の話をする。「ほかほか便り」を発行して保護者にも啓発する。 ・年に1回「ふれあい道徳参観」を実施する。	A	・計画的にたて割り班活動に取り組むことができている。 ・現在までに「ほかほかタイム」は1回実施し、そのときの様子をお知らせする「ほかほかたより」を出して、保護者に啓発することができた。 ・道徳科の授業を週に1回確実に実施して、振り返り活動を行うことができた。	A	・「人権意識の向上に努めている」と回答した教師は、83%だった。 ・「道徳の勉強のときは人の気持ちや自分のことを考えている」と回答した児童は、90%だった。低・中・高で数値の開きはなかった。 ・計画的になかよし共遊を行った。ふれあい道徳を1月20日に実施し，保護者からのご意見をまとめて，お便りを出した。	A	・（特記事項なし）	（心づくり部）
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめのないよい学校と回答した児童が80%以上 ○子どものことなど、学校に相談しやすい雰囲気が感じられると回答した保護者が80%以上	・気になる児童や保護者と深く関わりながら、信頼関係の構築に努め、SCやSSC等、関係機関との連携等、積極的な支援を行う。 ・定期的なアンケート（児童・保護者）や教育相談の充実を図り、「いじめ」などの実態を把握し早急に取り組む。	A	・週に1度の連絡会で気になる児童の報告や情報共有を行い、保護者や子供の様子を職員間で共通理解することができている。また，SCとSSWとの相談へとつなぐことができている。 ・心のアンケートを行い、気になる児童の保護者に連絡をとり、早急に対応することができている。	A	・いじめのないよい学校と回答した児童が89%だった。低学年は76%、中学年96%、高学年95%と低学年が低い数値だった。 ・週に1度の連絡会で気になる児童の報告や情報共有を行い、場合によってはSCやSSWとの面談につなぐことができた。 ・心のアンケートを学期に1回ずつ実施し、気になる児童には教育相談担当が子供との面談を行った。 ・子供のことなど、学校に相談しやすい雰囲気が感じられると回答した保護者は82%だった。（但し、回答をいただけていない保護者が5名）	B	・これからも、継続した取り組みをお願いしたい。 ・「心のアンケート」で楽しくないと書いたら「何で？」と先生に聞かれるから・・・という声を聞くこともあるので、児童と担任の先生との信頼関係が成り立っていないとアンケートを取っても本心は見えないのかなと難しさを感じる。相談しやすいと、親子共に安心して聞ける。「些細なことでも、どんどん言ってくださいね。」と言ってもらった時には本当に心強く思えた。	（心づくり部）
	◎児童が夢や希望を持ち、その実現に向けて粘り強く取り組もうとするための教育活動	○生活科や総合的な学習の時間の授業の中で、探究的な見方・考え方を働かせ、自分たちの生活が地域の人に支えられていると感じた児童、自己の生き方について考えることができた児童が80%以上	・生活科や総合的な学習の時間の授業づくりを中心とする校内研究を行う。 ・体験活動を通して、地域の方とのかかわりを深め、地域の人に支えられていると感じたり、自己の生き方を考えたりすることができたかどうか意識調査を行う。	A	・今年度は、10月時点で2回授業研をすることができた。講師を招聘し、指導していただいた。 ・児童の意識調査から、地域の人に支えられていると感じている児童は90%。自己の生き方を考えることができた児童は94%であった。	A	・今年度は，研究授業を4回実施し、3度講師を招聘し指導をしていただいた。また子供たちが主体的に取り組めるような助言をしていただいた。 ・児童の意識調査から、地域の人に支えられていると感じている児童は100%、自己の生き方を考えることができた児童は92%であった。	A	・（特記事項なし）	（心づくり、研究主任）
●健康・体つくり	❷「望ましい生活習慣の形成」	②規則正しい生活（適度な睡眠時間、適度な運動）を意識した生活をしていると自覚している児童90%以上	・定期的なアンケートを実施し、職員間で情報交換及び全体での指導を行う。	B	・適度な睡眠時間、適度な運動を意識した生活に関して肯定的な回答をした児童は87%であった。適度な運動に関しては、学年によって差があるため、体育の時間などを通して児童が運動の楽しさや喜びを感じられるようにしたい。	B	・適度な運動を行うことができていると回答した児童は88%であり、適度な睡眠時間が取れていると回答した児童は85%であった。また、長期休暇に入ると適度な睡眠時間を確保できていない児童が増えることが分かった。	B	・運動系の取り組みを嫌う傾向があるように感じる。（特に女児） ・「昼休みに〇〇先生とサッカーをしたよ。牧島小の先生たちは遊んでくれる先生ばかり！」という声を家庭でよく聞く。体を動かす楽しさを感じさせてもらってありがたい。	（体づくり）
	❸「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	❸「早寝早起き朝ご飯」を徹底させ、特に「朝ご飯を食べる」については95%達成を目指す。 ○好き嫌いをなくすだけでなく、手洗いや姿勢などを徹底し、給食時間の充実を図る。	・「早寝早起き朝ご飯の大切さ」についての保健指導を発達段階に応じて行う。 ・6月と1月にもりもりコンテストを実施し、食への関心を高める。 ・栄養教諭、学校栄養士と連携して食に関する指導を年2回行う。	B	・栄養教員と連携して、朝ごはんの大切さについて指導を行うことができた。 ・6月にもりもりコンテストを実施することができた。1月のもりもりコンテストでは、食事のマナーや食への関心が高まる児童がさらに増えるよう指導を行っていく。	B	・栄養職員による食に関する指導が2回実施できた。また、各学年への給食指導についても実施できた。 ・もりもりコンテストでは、食事の食べ方・箸の持ち方・姿勢について意識できた。箸の持ち方については継続して指導が必要である。 ・「毎朝、朝ごはんを食べる」については、92%の児童ができており、成果指標には届かなかったが高い割合である。	B	・朝食を取らない児童がいることが気になる。児童より、家庭の問題と承知している。学校と家庭の連携（保護者への働きかけ）のあり方に、ひと工夫必要かもしれない。 ・朝食の大切さや、食品が「赤」「黄」「緑」に分かれていること等を教えていただき、家庭でもこれは「赤」、今日の朝食は全部入っていると言うので、親もバランスよくと意識するようになった。	野田（体づくり）
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤推進日の設定 ・会議の縮減、会議時間の短縮 ・退勤時刻の明確化と呼びかけ	B	・定時退勤日を毎週金曜日に設定し、18時前後には退勤することが定着してきた。 ・会議時間は、資料を丁寧に説明しすぎて時間がかかっている職員がいる、早めの資料配付の徹底と、要点のみを提案することで、確実な内容の伝達と時間の短縮を図っていく。 ・行事等や翌日の授業の準備で帰りが遅くなっている教員がいる。データの共有や行事の見直しを更に進め、効率をあげること、職員の意識付けのために、退勤時刻の呼びかけを徹底する。	B	・金曜日の定時退勤日には、全職員の退勤が早くなった。 ・職員会議資料が遅くとも前日に配布され、会議が時間内に終わるようになってきた。Teamsにデータファイルを保存して会議で利用することが日常化してきた。 ・行事の準備や翌日の授業の準備、学級事務等で、どうしても退勤が遅くなってしまう職員がいる。同学年を複数で担任しているわけではないので、一人の担任に負担が集中する。教材等のデータを共有するフォルダを充実させる等の業務の効率化や、行事の精選等を進めて行く必要がある。	B	・「言うは易し、行うは難し」だと思う。 ・人員の配置等、学校では解決できない問題もあり、難しいとは思うが、引き続きの取り組みをお願いしたい。 ・家庭への持ち帰り残業がないか心配である。 ・朝早くから遅くまで、子供たちのために働いていただき、ありがたい。	教頭
	○教育活動の整理・合理化	○行事の数、内容の精選を行い、行事実施に関する時間の20%削減。	・行事の前に削減できる部分はないかを検討し、行事の後にその振り返りを行う。更に今年度の計画書に結果や改善点を明記しておくことで次回へ繋げる。	A	・コロナ禍での時間短縮も相まって、児童の活動等は確保しつつ、時間短縮をすることができた。また、行事の後には担当者に気づきや変更点を行事の要項等に朱書きで記入するよう指示し、来年度の行事計画の際の参考になるようにした。	B	・時間短縮や効率化を考慮して、行事を計画・実行してきたが、前年度の行事と比較して、削減できた事項はそれほど多くはなかった。また、校外の行事（コンクール等）の指導や出品準備が、学校の行事と重なり業務的に煩雑な時期があった。	B	・学校行事の見直しは大切だが、必要と思われる行事も多くあり、保護者や地域とも十分連携をとってほしい。	教頭

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○教員の指導力と意識の向上	○ 特別支援に関する専門性が向上した教員70%以上	・特別支援に関する研修会の実施 ・個別の支援計画の作成、ケース会議の開催、情報共有	A	・研修会を8月に実施。特別支援に関する専門性が向上したと答えた教員が100パーセントだった。 ・更なる専門性向上のため、11月に特別支援学校に巡回相談を依頼している。	A	・研修会を1回実施した。 ・ケース会議を1回実施した。 ・巡回相談を（伊万里特別支援学校より）1回実施し、児童の実態を参観してもらい、児童に合った指導支援についてのアドバイスを頂いた。関係の教員で共通理解を行い、普段の指導に生かしている。	A	・昨今、発達障害の疑いのある児童を含め、増加傾向にあるようだ。専門性も求められる問題だが、重要な取り組みなのでよろしくお願いしたい。	特別支援教育担当
○ICTの活用	○ICTの日常的な活用と授業改善	○教師のICTの活用と共に、児童のICT活用率を高め、効果的な学習を行う。	・デジタル教科書を活用したり、Q-Rコードを利用したりすることで、学習内容を具体的に理解できる手立てにし、効果的な学習を行う。 ・調べ活動、協働的な学び、プログラミング、まとめ学習で、朝の時間や授業の中で活用する。	B	・タブレットの研修を行い、いろいろな場で、タブレットを効果的に活用することができている。 ・全学年でプログラミングの手順の学習を行ったので、各教科等での活用を行っていく。 ・終礼時にタブレットの活用の実践を共有する場を設け、タブレットの活用につなげていく。	A	・ICT支援員に依頼しタブレットの研修を積極的に行い、繰り返し研修を積んだことで、教師の使用度やスキルが増した。 ・全学年でプログラミングの手順の学習を行ったので、各教科等での活用を行えた。 ・終礼時にタブレットの活用の実践を共有する場を設け、タブレットの活用につなげたことは効果的だった。	A	・ICTは必要不可欠なツールになっている。ICTについては、家庭によってハード・ソフト面で環境が異なる。そうした点を考慮した取り組みが求められる。よろしくお願いしたい。 ・プログラミングに興味を持って、家庭でもタブレットで画像や音を取り入れて組み立てていく姿を見て驚いている。先生方の日々の学びが子供に響いているのでありがたく思っている。	（教育情報化推進リーダー）
○地域と連携した教育活動	○地域の中の学校づくり	○休験活動に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上	・校内研究を通して年間指導計画の作成や地域素材の教材化などを行う。 ・地域連携会議を年間2回開催し、体験活動のねらい等を地域の方々と共有する。	A	・コミュニティーセンターと連携し、施設へのアプローチや活動に必要な予算等についても協力をしていただく事ができた。 ・地域連携会議を実施して、ゲストティーチャーと具体的な内容について事前に話し合うことで、子供主体の体験活動に繋がった。	A	・生活科や総合的な学習の時間をはじめ、運動会・駅伝大会・感謝の会等の学校行事においても保護者や地域の方の協力を得て教育効果を上げることができた。 ・地域の方から学校へ提案していただき、実現した活動（灯籠展示等）もあった。	A	・牧島小学校では、学校（教職員）と地域との連携がうまくいっていると感じている。これからも、継続した取り組みをお願いしたい。 ・学校が地域の方々を大切にされていることが、子供たちを通してとても伝わる。子供の体験活動から地域の良さを知ることが多かった。	教頭

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、年度当初予定していた行事で縮小や中止をしたものもあったが、保護者や地域の理解や協力を得ながら、ほぼ計画通り取り組むことができた。 ・家庭学習の充実、ゲームや動画等の視聴時間に関するルール決めなど、学校と家庭が連携をして改善していきたい。 ・次年度も、複式学級が2学級となる。教育課程編制、学力向上、教職員の働き方改革等多方面に影響が生じると思われる。これまでの成果を生かしながら、課題解決に取り組んでいく。 ・個人用タブレット導入2年目となるので、職員研修を計画的に実施していき、授業で更に活用することができるようにしていく。